

2017年

7月10日

第304号

ゆうあい通信

発行所 石井記念友愛園

宮崎県児湯郡木城町椎木644番地1

〒884-0102 Tel 0983-32-2025

一人の尊厳

園長 児嶋草次郎

カンナが咲き乱れ、クチナシの花の匂う、梅雨のある日、一人の青年が突然に園に来訪されました。今から27年前、1年3か月だけ小学生寮（天心館）で生活したことがあり、懐かしく訪ねて来たと言われます。こういう時は、とりあえず園長室に上がっていただき、話を聞くことにしています。

年齢は38歳、名古屋方面で調理関係の仕事をしていたけど、すべてを引き払い捨てて、ケイタイ電話もあえて持たず五感に身をまかせ、九州まで1年3か月かけて歩いてきたとか。一般的に言えば、住所不定の浮浪者ということになります。しかし、日焼けはしているものの身なりは小奇麗にしているし、汗の臭いも発散させていません。身の振舞いも常識人で、彼の話に引き込まれていきました。

県南のある町で親子4人で生活していたけど、父親の虐待が恐ろしくて家出するようになり、小5の時に施設に入った。母親はママ母だった。小学生寮の生活、茶臼原小学校の生活は天国だった。何の心配をする必要もなく、普通に御飯が食べられて普通に学び遊べた。しかし、小学校を卒業するとすぐに家に引き取られた。その時は家族は名古屋の方にすでに引っ越していて、強制的につれていかれた。その後の生活はまた地獄だった。中学校を卒業するとすぐ自立することにし、家を出た。色々仕事もしたが、調理の仕事に落ち着き10数年調理師として働いた。

彼は淡々と話しました。こうして話を聞いているうちに、たいがい私も思い出すのですが、小学生の彼を思い出すことができませんでした。当時は、小学生寮の天心館は、現在地より500m以上離れた場所にあり、普段接触の機会がほとんどありませんでしたし、私の記憶力もかなり減退していますので、彼には申し訳ないのですが、彼の少年時代は私の脳の中で蘇ることはなく、残念ながら共通の話題を見つけ出すことができません。

話を聞きながら不思議に思えてくることがあります。波乱万丈（はらんばんじょう）の人生を送って来た割には、落ち着いておられるのです。私も色々な卒園生を見て来ましたが、彼の重々しい負の体験からすれば、人間不信に陥って世の中

に反抗するような生き方をしてもおかしくないのに、彼の目は清んでいるし、言葉の端々から誠実さが伝わってくるのです。人に迷惑をかけないというのを信条としているようでもありました。

私は繰返し、あなたを今まで支えてきたものは何なのですかとたずねてみました。特に宗教を持っているようにもみえなかったのです。

彼の規範力というのは持って生まれた資質なのでしょう。彼は、その質問にははっきりとは答えなかったけど、小学生寮での1年3か月ほどは天国だったと繰返し話していました。ここでのたった1年ちょっとの楽しい思い出が、もしかしたら彼の人生を今まで支えて来たのかもしれない。そして、そのことを確認するために、彼は1年以上かけて導かれるようにここを訪れたのではないのか。

「あなたは、自分の意志でこうして歩いて放浪しながらここを訪れたと思っているかもしれないけど、2、3年時がたって振り返って見たら、あれは天の導きだったのかもしれないと思える時がありますよね。言わばルーツ捜しで、導かれてここに来たのかもしれないよ。」そんな風な話も私からしておきました。

当時の記録も写真も何も持ってないということなので、ちょうど私が茶臼原小学校PTA会長時代にPTA役員たちと一緒にまとめた「学校創立50周年記念誌」の中から、彼の卒業した年度の卒業生名簿(21名)をコピーしてさしあげました。顔をほころばせながら、懐かしそうに一人ひとりの名前をつぶやくように読みあげていました。

彼はその後、小学校をも訪問し、校長先生から親切に案内してもらい、一枚の当時の集合写真のコピーもいただいていた。

彼が当時住んでいた旧園舎の今の住人は高見乾司氏ですが、そこにも2日間ほど泊めてもらい、当時の思い出をたどりながらおそらく自己の存在の意味を確認し直し、満足して帰っていきました。また歩いて名古屋まで行く予定とのことでした。頭を深く下げる彼の姿を見ていて、引き止めたい衝動にかられましたが、グッと我慢しました。これが導きであれば、彼は宮崎にそのうちに帰ってくることでしょう。

彼との今回の出会いを、私はどう整理したらよいのか。私が彼の立場だったら、その孤独に耐えていけるのだろうか。彼は今、その孤独に徹底的に向き合ってみようとしているようにもみえます。その先に希望はあるのか。私との出会いが彼の希望になってくれればとも願います。「今もあなたと同じような経験をした子供たちが、ここにやって来ているんですよ。今までのあなたの人生を、子供たちのこれからの人生に役立てるような生き方ができるかもしれませんね。」そんな話もしておきました。

たった1年ちょっとの園生活が、その人の人生を支えていくということもあり得るのかもしれない。そう言えばクラークが札幌農学校で教えたのは9か月ほどだったし、吉田松陰が松下村塾で教えたのは1年1か月くらいだけだったのです。教え子たちは、その短い期間の思い出を支えとしてその後の人生踏ん張ったのです。彼が巣立って27年たった今も当時と同じように子供たちはここで生活している。子供たちのこれからの人生がかかっているわけだし、ここの生活の一時一時を大事にしていかねばならないと改めて思います。

それから2、3日後、彼が通った茶臼原小学校の参観日があり、同時に学校評議員会が開かれ、私は出かけて行きました。授業参観には、指導員や保育士がいつも行きますので、私はほとんど出たことはありませんが、今回は早目に行き教室をのぞかせていただきました。彼の話聞いて、学校の先生方にあたたかく受け入れていただいている天心館の子ども達の姿を、確認したくなったのです。彼に劣らないくらいのマイナスの体験をして来た子供もいます。その子供たちが学校で伸び伸びと明るく授業を受けている姿を見ることが、27年前の彼の姿を確認することにつながるように思えたのです。その後に行われた評議員会では、この地域と学校にずっと受容していただいていることを感謝申し上げました。

ごくあたり前のように子供たちの生活は流れていきます。職員もそのことを当然のこととして日々指導を重ねていきます。しかし、今回立ち止まって考えてみた時、一日の多くをすごす学校の先生方とその学校を囲む地域の方々、学友たちへの感謝の気持ちを、もっとしっかり持つべきだと気付かされたような気がします。

話しは変わりますがもう一つ今同じように深く考えさせられていることがあります。この4月よりスタートした都城市内の乳児院「石井記念仁愛の家」の養育方針についてです。現在すでに4人の乳児が生活を始めています。かわいらしくてしょうがない乳児たちのこれからの人生を想像していると、乳児に関わる職員達の責任の重さを思わないわけにはいきません。この世に生まれ落ちてまもなく、無条件に母親に愛されるべき時に大人たちの都合で分離され施設生活をさせられるのです。歩くことも満足にできず自己主張もできない彼らは、ただその運命を受入れていくしかありません。友愛園の中・高生の子供たちには、園生活は自らの運命を変えるための修行なのだと言いますが、乳児にそれを求めることはもちろんできません。だったら、なおのこと職員の責任は重くなります。

乳児院での生活は長くてもわずか1、2年ほどですが、人生をスタートするにあたり、その運命を左右する生活の場として、親にも負けないような愛情をたっ

ぷり注いであげる必要があるでしょう。

その後、また母親と一緒に暮すことができるようになるろうと、里親さん宅で暮すことになるろうと、また施設で暮すことになるろうと、これからの人生を生きぬいていくための基盤を築く場として、母親の模範ともなるくらいの最高の愛情と文化的生活空間を準備してあげる必要があるでしょう。そうでなければこの仁愛の家が存在価値はないと言ってもよいでしょう。石井記念友愛社の真価が問われていると言ってもよいと思います。

幸いなことに、すばらしい園長・主任と職員達でチームを組むことができ、良きスタートが切れています。しかし、今後しだいに大人の効率主義や御都合主義等に流されていかないように、その養育方針をしっかりと明文化しておく必要性を4月以降感じ、アレコレと考えて来ていました。頭の中である程度まとまった3か条をここに記しておきます。

子供たちは、どんな親のもとに生まれ落ちようとも、天からの授かりものなのです。かけがえのないそれぞれの人生が、人間達の都合によって翻弄されることがないように、自分達に与えられた場で精一杯その人生を切り開いていけるように働いていかねばならないのだと思います。38歳の青年の人生が今後好転していくことを祈りながら、児童養護施設の子供たちの人生にも真摯に向き合っていきたいと思います。

乳児院 石井記念仁愛の家 養育方針

人生をスタートするにあたり、一人ひとりを、天に愛され尊厳を持つ人として重んじ、次の人生につながるように大切に養育・支援を行う

- 1、一対一で向き合い、親に代わる愛情（愛および仁）を丁寧にこまやかに注ぎしつけ、信頼関係を築く（家族主義）。

*入浴指導、添い寝、スキンシップ等により愛着関係を築き、基本的な段階を踏んだ指導を大切にする。母子支援も大切な支援であり、関係機関連携のもとに関わる。

- 2、天から愛された存在として、誕生（この世に授かったこと）への称賛と感謝をたえず伝えながら、自尊心を育てる（児童中心主義）。

*人生のスタート時点に関わる大人として、自己肯定的な感性が育つように、ほめることを優先したしつけを行う。

- 3、一人の人として尊重する文化的養育環境とサービスを与える。（不変不働主義）。

*一人ひとりの未来を信じ、その五感・心・身体の育ちを、効率主義・御都合主義に流されず、子供の最善の利益を保障する文化的サービスで支える。衣類等の共用の禁止。